

サンクチュアリセンターニュース

3月17日(土)に伊豆沼漁協、伊豆沼・新田北部両土地改良区および財団による堤防の一斉清掃(野火)を行いました。天候にも恵まれ、二工区・三工区とも広範囲に焼却することができました。雑木・雑草が増え、ゴミの不法投棄が多かった堤防周辺も今回の野火により、ヨシ群落の維持が図られ、沼の景観が改善されることが期待されます。

Vol.94
平成30年4月号

第65回生態学会大会に参加してきました

平成30年3月14日～18日、札幌コンベンションセンターで開催された第65回生態学会大会において、研究発表を行いました。多くの研究者が集まり、活発な議論が行われました。以下に発表内容の概要を紹介しますが、学会の参加者にも興味を持ってもらえ、盛況のうちに終了しました。



ポスター発表

・宮城県北地方に分布する湧水湿地—その植生と立地、環境要因との関係(速水 裕樹・藤本 泰文)

みなさんは「湧水湿地」を知っていますか？土や岩の斜面に水がしみ出してぬれているだけの、なんとも微妙な感じの湿地が、湧水湿地です。一見湿地には見えない、「湧き水」で湿った斜面なのですが、めずらしい植物が多く見つかる場所です。東海地方のものが有名なのですが、これまで東北地方ではほとんど見つかっていませんでした。今回私たちは、宮城県で「湧水湿地」とよく似た湿地を発見しました。詳しく調査した結果、「湧水湿地」に特徴的な植物も見つかり、東北地方では非常にめずらしい発見であることが分かりました。

←発表に使用した
ポスター原稿
(写真左)

生態学会の会場内
の様子→
(写真右)



葛西臨海水族園で講演してきました



会場風景(上)と
マグロ水槽(右)



東京にある葛西臨海水族園に依頼を受けて講演してきました。クロマグロの回遊水槽で全国的にも有名な水族館です。参加者は約70人。中学生から年配の方まで、東京周辺にお住まいのさまざまな方々がお越しになりました。

講演のタイトルは「ゼニタナゴのいる水辺を守りたい！～伊豆沼・内沼ゼニタナゴ復元プロジェクト～」。外来魚駆除活動を中心に、伊豆沼・内沼のさまざまな活動を報告しました。発表後にたくさんの質問があり、質疑応答だけで30分以上に及び、東京の方々に高い関心を持って頂けたのだと思っています。

先月の鳥取県での講演と合わせて、伊豆沼・内沼の活動が全国的にも高い関心を集めつつあるようです。

第59回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを開催しました。

3月21日(水)(春分の日)に第59回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンが開催されました。周辺地域の方々や地元企業をはじめ、多くの方々にご協力いただきました。

今回の参加者は3会場で1067人、ゴミの量は約900kgでした。タイヤや体重計などの粗大ゴミの他、猫砂が捨てられていました。

伊豆沼・内沼の美しい自然環境を守るため、ゴミを捨てないようご協力をお願いします。



多くの方々に参加いただき、年々、ゴミの量は減少しています。これからもご協力をお願いします。



伊豆沼・内沼生き物図鑑 サクラの仲間 *Cerasus* sp.



サンクチュアリセンター裏のサクラ(ソメイヨシノ)

厳しい冬が明け、いの一に咲くサクラの花は、春を代表する風物詩です。私たちが普段目にするサクラのほとんどは、「ソメイヨシノ」という江戸時代に作出された栽培品種で、大振りの花が一斉に咲き、一斉に散ることが特徴です。これは、ほぼ全ての株が同一起源のクローンだからです。「ソメイヨシノ」は、「エドヒガン」(長生きで大木になる)と「オオシマザクラ」(桜餅の葉に利用される)が主な原種と考えられていますが、一部「ヤマザクラ」などの遺伝子も混入しているようで、未だに謎が残されています。

今年に入ってから、熊野地方でサクラの新種が発見されたそうです。日本には、サクラの仲間がおそらく100種以上に存在し、宮城県内だけでも23種が記録されていますが、実際には知られていない種類がまだ隠れているかも知れません。身近なのに謎めいた存在、それがサクラの仲間です。

<事務局>

〒989-5504宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217

ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp